

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

5

May, 2014
vol. 390

Contents

建築探訪…01

会員仕事紹介…03

支部だより…05

旅行記…07

委員会だより…09

編集者のつぶやき…10



オフィシャルウェブサイト（会員ページ）では会報KANAGAWAをフルカラーで掲載しています。
会員ページには会員番号でログインしてください。

建築探訪

ヴィープリの図書館／アルヴァル・アールト／1927-1935

Viipuri Library/Alvar Aalto/Viipuri (Vyborg, Russia)

横須賀支部 株式会社アステック建築事務所

九州産業大学工学部教授 小泉 隆

1



円筒形スカイライトによって拡散光に満たされた閲覧室 コントロールカウンター方向を望む



波打つ天井が連続する講義室 アールトデザインのスツール



メインエントランス外観



エントランスホール



閲覧室へと続く大階段



左手入口からはいった一層分低い閲覧室



入口扉越しから望む講義室



講義室より公園を望む

近代建築の巨匠アルヴァル・アールト(1898-1976)の初期の代表作。パイミオのサナトリウム(1933)とともに、アールトを近代建築の北の雄として世界に名を轟かせるきっかけとなったヴィープリの図書館を紹介したい。白い幾何学的なヴォリューム構成、水平連続窓など、まさにモダニズムといった外観を呈しているが、内部においては、読書をする人間のことを第一に考えた閲覧室など、その後のアールト作品にて鮮明になる「人間のための建築」というテーマが萌芽した重要な作品だ。

第二次大戦、ソ連崩壊などを経てこの図書館は大変損傷していたが、1994年からアールト財団が中心となり、世界各所から寄付金を集めながら改修プロジェクトがはじまった。2009年には主要部分がほぼ改修され、その後、設備や塗装などの更新を経て2013年末にこの大プロジェクトは完了した。私が訪れたのは、閲覧室は開室していたが講義室がまだ瓦礫の山の状態だった2006年と講義室改修後の2011年である。

さてフィンランドの南東に位置していたヴィープリは、現在ロシア領だ(ロシア地名：ヴィボルグ)。ヘルシンキからヴィープリへは、サンクトペテルブルク行き国際列車Allegroで約4時間半(1日4便、2014年)。ロシアのヴィザはヘルシンキで申請すると一週間程度かかるが、時間がない場合は日本で取得すれば良い。ヴィープリの駅からは、徒歩15分程度であり、ヘルシンキから日帰りも可能だ。

この図書館は、閲覧室、児童図書室などからなる大きな直方体の棟と、講義室、管理室などからなる細長い直方体の棟がずれながら組み合わさって出来ている。透明ガラスの入口ドアを開けるとエントランスホールに出るが、その先の大階段を数段上り左手の入口から入ると一層分低い閲覧室に出る。一方、右手に進んで廊下をくぐり階段を折り返して上がると、コントロールカウンターのある閲覧室の上階に出る。図面からはわかりにくいですが、このアプローチでは劇的なシーケンスが体験できる。

アールトは、この一段ずれてつながる閲覧室を、読書のための静けさを確保すべく75センチの厚い壁で囲った上で、読書に適した光の環境を作るために、天井に直径約1.8メートルの円筒形スカイライト57個を均

等にグリッド状に並べた。この円筒の深さは、北緯60度の北の地ヴィープリにおいて最も太陽が高くなる夏至南中時の太陽高度52度の光が直接入射しないよう約1.6メートルに設定されている。その土地の環境を十分に考慮したものだ。そのことで年間を通じて読者の眼に好ましくない直射日光が直接内部に入らずどの方位から入射した光も円筒の内壁にて効率よく拡散し、安定した拡散光が閲覧室を満たすことになる。アールトはこの室を「太陽が無数にある閲覧室」と呼ぶ。

この建物のもう一つの大きな見所は、1階に細長いヴォリュームとして存在する講義室だ。後方の席まで声がよく届くようにと、音響的な観点から決めたとする波打つ曲面の天井は、その後アールトの代名詞になる「自由な曲面」の初期の代表例だ。現在見られる天井は2008年改修のものだが、約45ミリ幅の松材を実継ぎで繋ぎながら作られている。音響効果とともに有機的な曲面に戯れる光の効果も魅力的だ。

紙面が尽きてしまったが、この図書館はコンペ当選時まだ30歳前というアールトの並外れた力量が閲覧室や講義室をはじめ随所に実感出来る作品である。北欧の旅の途中に是非とも訪れて欲しいと思う。

尚、アールト作品を光に着目して捉え直し、現地で撮影した光の美しい写真とアールトの言葉、ドロ잉などとともに主要作品をまとめた『アルヴァル・アールト 光と建築』という書籍を2013年に刊行したが、ヴィープリの図書館しかり、その他の代表例や貴重な事例も取り上げているので、手にとって頂ければ幸いである。

□引用・参考文献

- 1) 小泉隆『アルヴァル・アールト 光と建築』(ブチグラパブリッシング、2013)
- 2) 小泉隆『フィンランド光の旅 北欧建築探訪』(同、2009)
- 3) Alvar Aalto Library in Vyborg: Saving a Modern Masterpiece, Finnish Committee for the Restoration, Rakennustieto Oy, 2010

注：写真は全て小泉隆撮影



円筒形スカイライトが並ぶ閲覧室の屋上 シンプルなガラスのディテール



講義室外観 波打つ天井の断面形

会員仕事紹介

BOKKEN SEIYODO・ぱんやのパングワン 東京都世田谷区



BOKKEN SEIYODO

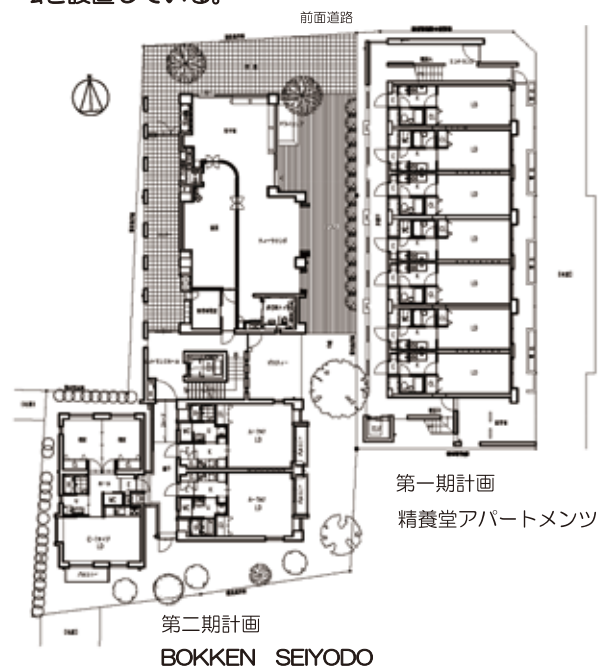


集合住宅の命名は初代頭首の名前にちなみ BOKKEN SEIYODO と命名された。オーナーの家族が運営する創業 110 年の製菓店は、ぱんやのパングワン（フランス語のペンギン）として生まれ変わった。

川崎支部 株式会社アービエ設計事務所 白石 巖
創業 110 年となる精養堂製菓店は 1993 年の一期計画（精養堂アパートメント）に続き、旧店舗、工場跡地に本建物が完成した。

配置計画は、精養堂アパートメントと平行した南北軸配置。店舗と住宅の入口を明確に分ける為に、西側境界に沿って深い奥行きのコリドーを設け、奥まったエントランスを中心とした住戸配置となる。南西側の広がった敷地部分には南面する別棟を配置、結果として多様な住戸プランが生まれた。

建物の性能は様々な要素において長寿命であることに取り組んだ結果、「住宅性能表示制度」耐震等級二、温熱環境等級四、その他を取得した。室内は外断熱+Low-e ガラスにより、高い断熱性能を有している、これにより温熱環境の快適性ばかりでなく高い省エネ性も発揮できる。又、共用部の電力消費を補う為に、発電出力 10.08kw の太陽光発電システムを設置している。



テラスに連続したカフェ



深い奥行きのコリドー（回廊）は、都会の喧騒から静寂へと繋がる場所として機能している。両側の壁は、杉板材型枠によるコンクリート打ち放し、もう一方の壁には 400 本におよぶレッドシダーのタテ桟が組み込まれている。

4ミリのアルミ板によるボルト天井は、シンプルに間接照明のふところを形作っている。

新しい住戸プランの提案

間口 4.4m、奥行き 8.25mの住戸ユニットに居室ゾーンと水廻りゾーンをたて割りしたタイプを提案した。廊下側からバルコニー側まで奥行き 8.25mの居室は床から天井までの半透明の大型建具で仕切られる。このようなリビングアクセスのワンルームは賃貸市場ではなかなか見られない、募集で最も人気の高かったのはこのタイプであった。

広いワンルームから2LDKのファミリータイプまで5タイプを用意した26戸の賃貸マンションは都心でも競争の激しい地域にも係らず募集から二ヶ月足らずで満室となった。



A3 タイプ・住戸平面図



水廻りゾーンの下を逆スラブにして、配管ピットが廊下側 PS まで設けられている。



BOKKEN SEIYODO



・スケッチアップによるCG

パソコン用の 3D モデリング・ソフトウェア SketchUP を計画・プレゼンテーション・実施設計のモデリング・色彩計画など、各段階での検証、又クライアントとのコミュニケーションツールとして有効に活用した。ウォークスルー（人の動線、又は鳥瞰の動画）ビデオにより TV モニターに映し出されたバーチャルリアリティは模型、パースの領域を超えて理解を深める事が可能となる。

支部だより 横浜支部の環境に色々な動きが出ています

横浜支部長 小渡 佳代子

横浜支部はゼロから歩きだし、タイムリーに！スピーディに！コンパクトに！そしてゆるやかに！を心がけ、設計事務所協会としての理想を高く持ち2年が過ぎようとしています。今まで神事協活動を支部会員に周知する機会が少なかったために、戸惑うことも多々ありましたが、本会や各支部の御理解をいただき事務局を本会内に開設でき、会員増強に大きく繋がったように感じています。

会員事務所の業務支援は、本会の業務支援委員会、企画委員会、特別委員会の企画に、支部会員が多く参加していただくよう周知し、支援してきました。特に本会で活躍されている支部委員の生の声で支部役員会・地区長合同役員会にて報告いただいています。会員間の親睦行事にもできるだけ参加していただきたいと思っています。

支部独自事業は社会貢献と設計事務所のキャンペーンを兼ね、MARK isみなとみらい4F東京ガスの暮らしのライブラリーで「豊かな暮らしと住まいのデザイン相談室」を毎週水曜日に開催して半年になりました。パンフレットやタペストリーも新しくなり、設計事務所の仕



「住・緑・家」のコンペがオープンになり、実施された物件が3件。横浜市の町内会館がコンペになって現在4件が進行中、新しい会館2件も横浜の自治会館です。支部会員の多くの方が参加、協働で応募された話も聞き、いろいろな挑戦が生まれ嬉しいです。横浜市民局の担当者からも素敵な自治会館ができて喜ばれています。「住・緑・家」を相談窓口や市の担当窓口にさらに広報していきたいと思っています。

横浜支部は東京、神奈川、千葉、埼玉の事務所協会の「首都圏会議相互支援基本協定書」を結び書籍やセミナー等会員価格で参加できるようになる連携もいち早くお知らせしていきます、会員サービスとしては本会の健康保険や共済会の周知とともに、設計事務所の更新手続きを忘れないように無料でサポートすることを26年度よりスタート致しました。

これからは、市民向けHPを充実させ会員の紹介をしていきたいと考えていますが、なかなか進まずこれからの課題です。260名を超える大きな支部です。全員が満足とは思いませんが、設計事務所協会のあるべき姿は追及していきたいと思っています。まだまだ課題はありますが、横浜支部は、タイムリーな企画はスピーディに検討しコンパクトにゆるやかに対応し活力ある設計事務所協会になったら嬉しいです。



支部だより

(一社) 神奈川県建築士事務所協会県西支部 活動報告

支部長 小林 幸一

海・山・川に囲まれ、自然や歴史的環境に恵まれ、道路や鉄道網が充実した県西エリアに存在するのがご存じ県西支部です。かつては小田原支部と称していた時期もあり、会員数も100名を超えていた時期もありましたが、平成24年に設立50周年を迎え、現在50名弱の会員数にて活動を行っています。小田原市・南足柄市をはじめ箱根町から湯河原町、松田町から中井町等の2市8町の行政管轄エリアを受け持ち、行政諸官庁との連携を取っています。

支部の主たる活動は、総務広報委員会が担当する、一般総務活動及びホームページを活用する広報活動があります。次に企画研修委員会が担当する研修旅行や官民間問わず各種イベントへの参画、そして業務特別委員会が担当する勉強会や講習会があります。また数年前より、耐震に対する地域の要請があり、耐

震部会を組織し、6つの行政との連携を図り年間20回程度の耐震相談を行ったり、耐震勉強会を行っております。

また、本会には12部署、9名がお世話になっておりますが、遠方の支部というレッテルに負けず、芝副会長を筆頭に頑張っており、50歳代半ばの支部長もうかうかしてられません。

建築士事務所の常識が世間の非常識とならぬよう視野を広げ、社会問題に対してもいかにして主張していくか、自由な発想を支部や本会に持ち込んで、建築士事務所として社会的責務をどのように果たすべきか考え活動を行って行かなくてはなりません。

県西支部役員並びに会員一同一丸となって、自らの成長、発展と共に建築士事務所協会が発展することを望んでいます。

6



旅行記

フランスの地方都市・ムラン市（イル・ド・フランスの一都市）と周辺の街他……を訪ねて「景観保存と住宅保存の街と市民の生活事情」

横浜支部 白川 正孝

9月中旬、ワイフと2人フランスに旅立ち、娘家族が生活するムラン(市)に10日間程滞在しました。パリの東側のセヌ・マルヌ県南に位置し、パリ・リヨン駅から急行電車に乗り30分程でムラン駅に着く。

(おおよそ東京から横浜・湘南の距離感でしょうか。)

街の住民の多くがパリ周辺に通勤していて、一度、朝早くパリに向かったとき、ムラン駅は日本の通勤時間程の込め合いはないが、駅のホームは通勤客であふれ又、電車の中では、黙々と新聞読む人・ゲーム機に夢中な人・携帯でメールをいじる男女……日本とあまり変わらない風景です。

駅舎は、街の景観を損なわないよう旧市街地外の南側に作られています。

因みに、パリからムランまでの鉄道開通した時期は、日本ではペルー来航・黒船来航し徳川幕府始め日本中が右往左往している1849年のことです。

1) 街の中

街の中央をセヌ川がゆったり流れ(パリを流れるセヌ川の上流)、兩岸の大きな樹木や教会他建物・橋等があり、市街地は瓦や平石葺きのペントハウス・煙突付の屋根・現地産の黄土色の石を埋め込んだ外壁と楽しそうな窓を持つロマネスク調な建物が保存・統一され又、街の至る所に樹木や草花の手入れがなされていて本当に綺麗な街並みの佇まいです。終日1人で街中を歩き回りましたが、街区が直線ではなく丁字路にモニュメントになる建物・街の至る所に小さな広場があり必ずおしゃれな店があり、昼間でもカフェのスタンドに大人がたむろしています。9月は午前中小雨が多く降ったり止んだりで昼ごろにはカラリと晴れた為か、お年寄り以外ほとんどの人が傘を差さず襟を立てて歩いています。アフターファイブは街のあちらこちらのカフェが賑わいます。

2) 改修工事現場

ところどころ見かける建物の改修や住宅のリフォームは旧来の状態に復旧し使われて、それがステータスになっているようです。旧市街地の外周部に新しいマンションや病院・学校等又大きなスーパーマーケットが作られています。

住宅の改修現場を覗きましたが、仮設足場も雑で、素人のような工事人が外壁にモルタルで石を貼り付けていたり、凸凹のコンクリートスラブに穴を開け

たり、ブロックを積んだりしているが、庭仕事の延長のような仕事ぶりに見えます。

ブロックとモルタル・石を貼り付けているだけで、屋根や窓廻りの防水処理工事は日本では考えられないお粗末さです。

1階にお店が在るのに2階を壊して、屋根工事を行う……雨や湿度が少なく、地震もない国だからでしょうか。

3) 街の生活事情

子供がいても働く女性が多く、共働き家族の子供の為に学校や幼稚園の未就学時のシステムが出来ていて、娘夫婦も生活システムを活用しています。

又、バカンスが終わった季節の、土曜・日曜日には街の広場や周辺の村で、蚤の市が開かれます。フォンテンブロー森の競馬場、厩舎の近くの蚤の市は有名だそうです。多くの人が訪れていました。昔からの絵画や家具・調度品・浮世絵まがいの本もあります。

4) 街の周辺

①バルビゾン村

街の周辺にはフォンテンブローの大きな森や宮殿、画家ミレーの「落穂ひろい・晩鐘」で有名な画家たちが生活したバルビゾンの村があります。鉄道開通による利便性が画家はじめ文化人が移り住むようになったようです。

(因みに、バルビゾン村の一角は最近別荘地開発が進み、裕福なアメリカやイギリス人北欧人が豪邸を購入し週末生活しているそうです。)

②ボールビコント城

ムランから30分程の所に、17世紀時の財務長官：ニコライ・フーケ公爵が建設したボールビコント城があります。広大な土地に建築家のルボー、画家のル・ブラン(内装)、造園家のアンドレ・ノートンが手掛けた大宮殿で、前庭・厩舎・表庭が素晴らしく、現在も夏場大ホールで舞踊会・食事会が催されているそうです。

(余談ですが、城が個人の所有物で相続税制度が気になります。)

その後、内装家：ル・ブランと造園家アンドレ・ノートンはベルサイユ宮殿の建設に携わったとのこと。



ムラン中央を横断する、セーヌ側中洲のノートルダム教会ほか



教会内部



セーヌ川と遊歩道



旧市街地



街中の風景・正面が教会



改修工事現場・屋根未工事



街中の広場・夕方は人で混雑



バルビゾン村



ポール・ビコント城正面



表庭園

委員会だより

神事協新事業 ～青年交流専門委員会～



日事連の建築士事務所憲章にあるように「建築や環境が文化の形成に占める重要な意味を認識し、社会の健全な進歩と発展に寄与する」そのために我々は、建築士事務所協会という組織を構成し、各支部・各委員会が活動を通して共に研鑽し、支え合い建築士事務所の存在意義を高めるため、力を結集していると思います。

その中においてブロック支部委員会では、会員親睦や本会・支部間の情報交換等行っておりますが、この度「青年交流専門委員会」を立ち上げるべく準備会を立ち上げました。次代を担う人材の発掘及び育成、世代を超えた発想を取込み、より魅力的な神事協を目指すために、各支部から約20名の若手を「青年交流専門員コアメンバー」として輩出していただき、その内の約15名のご参加をいただき、平成26年3月20日に準備会が開催されました。



ブロック支部委員長 小林 幸一（県西支部）

準備会では、まちづくり活動に実績をお持ちの首都大学 研究員の小口様を講師にお迎えし、ワークショップを行いました。若手のコアメンバーによるグループが2チームで、神事協（青年交流専門委員会）を通じて何に取り組みたいかをテーマに意見交換していただきました。もう1チームが現支部長とブロック支部委員によって構成され、神事協の現状と、若手に取り組んでほしいことをテーマに意見交換していただきました。最後に各チームがそれぞれの内容を公表し、参加者がどんなことを感じているか「見える化」が行えたのではないかと感じます。準備会では、結論を出すことは目的ではなく、「見える化」によ



て今後どのように活動していくかのヒントを得ていただき、メンバーのことを知ることが目的です。今後、青年交流専門委員会コアメンバーが、自由で独自の発想を広げ、青年交流専門委員会をどのように展開できるか楽しみです。準備会の締めは会議室で行った懇親会です。小林会長の暖かい激励のご挨拶の下、参加者の親睦が深まりました。今後も会員の皆様方にはコアメンバーへの温かいご支援を賜りたいと存じます。最後に、各支部の支部長をはじめとする皆様方にご協力をいただきましたこと、講師の小口様には準備にお力を頂戴しましたことに感謝を申し上げます。

新入会員のご紹介

4月1日付け入会者

横浜支部

Y N design 四ツ谷奈津子
〒223-0066横浜市港北区高田西1-14-20-101
TEL.070-5540-7225 FAX.045-548-4184

アースクリエイト有限会社一級建築士事務所 古屋 浩二
〒244-0004横浜市戸塚区小雀町129-3
TEL.045-858-1400 FAX.045-443-5900

5月1日付け入会者

横浜支部

株式会社ビッグヴァン 眞殿 治
〒231-0015横浜市中区尾上町6-83
TEL.045-227-9511 FAX.045-227-9510

ブルーポイント一級建築士事務所 吉川 文子
〒231-0004横浜市中区元浜町3-21-2
ヘリオス関内ビル9階
TEL.045-681-3081 FAX.045-681-3083

株式会社山田資産コンサル一級建築士事務所 野澤 定幸
〒220-0004横浜市区西區北幸1-11-15
横浜STビル15階
TEL.045-325-5251 FAX.045-325-3953

株式会社二十一設計一級建築士事務所 桑田 哲司
〒220-0023横浜市区西區平沼1-39-3
三石ヨコハマビル
TEL.045-317-6656 FAX.045-324-1855

アジャート建築設計 勝手 美保
〒240-0044横浜市保土ヶ谷区仏向町1338-52
TEL.045-340-4755 FAX.045-340-4756

株式会社ウェルブランドハウス 中居 孝
〒241-0001横浜市旭区上白根町903-4
TEL.045-951-0876 FAX.045-951-0876

株式会社建物保全センター 福市 博臣
〒221-0835横浜市区神奈川区鶴屋町3-35-11-504
TEL.045-324-6152 FAX.045-324-6185

有限会社りゅうこうぼう 柳川 健一
〒221-0055横浜市区神奈川区大野町1-8
TEL.045-461-2600 FAX.045-453-4544

ないとう登記測量・設計事務所 内藤 武夫
〒221-0005横浜市区神奈川区松見町3-920-8
TEL.045-431-2580 FAX.045-517-0377

賛助会新入会員

平成26年度入会者

株式会社鹿島技研
株式会社アイジーコンサルティング
アーキヤマ株式会社横浜営業所
三洋工業株式会社
株式会社フリー・ステアーズ

会 勢

平成26年 5 月 1 日現在

支部名	平成26年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 濱	254	262	9	1	8
川 崎	108	106	0	2	-2
横 須 賀	51	51	0	0	0
湘 南 三 浦	18	18	0	0	0
藤 沢	24	24	0	0	0
鎌 倉	38	38	0	0	0
茅ヶ崎葉川	18	18	0	0	0
平 塚	22	21	0	1	-1
秦 野	19	19	0	0	0
伊 勢 原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	20	19	0	1	-1
厚 木	32	32	0	0	0
座 間	12	12	0	0	0
海 老 名	15	14	0	1	-1
愛 川	8	8	0	0	0
相 模 原	79	78	0	1	-1
県 西	47	46	0	1	-1
合 計	773	774	9	8	1
賛助会員	80	78	3	5	-1

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

・第2回定時総会を平成26年6月6日（金）に、ロイヤルホールヨコハマにて開催いたします。詳細のご案内については、後日お送りいたしますのでご確認ください。なお、往復はがきにて送付させていただきますのでご承知ください。

・3月号でお知らせしたとおり、会報KANAGAWAの発行が隔月（奇数月）になりました。

なお、日事連会報は毎月お届けいたします。

編集者のつぶやき

念願でありました会報KANAGAWAのカラー化です。フルページとはいきませんが、建築探訪、会員仕事紹介、旅行記など執筆者の皆さんの思いや感動をよりお伝えしやすくなりました。重ねて中身の充実も広報委員総出で図っていく所存です。ご期待ください。

写真は、旧岩崎邸等を設計したジョサイア・コンドルによる旧古河庭園洋館（東京都北区）です。真鶴産 新小松石を外壁に擁した堂々たる外観の見応えある建物ですが、庭園もすばらしくコンドルの設計による西洋庭園と小川治兵衛作庭の和風庭園が両方楽しめるのも特長です。ぜひとも機会あらば訪れてみて下さい。（相模原支部 杉本 勝郎）



かながわ 平成26年5月号（通号390号）

発行 平成26年5月1日（奇数月1日発行）
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

・ 担 当 副 会 長 芝 京子
・ 広報情報委員長 白川 正孝
・ 広報情報副委員長 宮寺 透雄 小泉 厚
・ 広報情報委員 森 雄治 恩田 耕爾 棚橋 由佳
・ 新倉 良一 坪井 教一 杉本 勝郎
・ 事 務 局 小林 恵美



ナビオス横浜自動車道からMM21を見る

今月の表紙

大岡川の桜とMM21

横浜の風情を留める大岡川・川沿い桜と横浜MM21のコントラスト。

大岡川の2kmに及ぶプロムナード沿いの桜を見ながら、MM21内の運河パークに流れ込む。

MM21の眺望と大岡川の桜・接岸する小船の対比…が面白くシャッターを押しました。
